

No.71 ロバート・ラウシェンバーグ 「自転車もどきVI」

Robert Rauschenberg

北川フラムさんのコラム / 1999 (平成 11) 年 1 月 1 日付 立川市市報記事より

ラウシェンバーグは 20 世紀の美術を代表する作家で、先日も世界文化賞を受賞して来日した。社会に日常あるものをうまく組み合わせて独特の空間を作ってしまう。もともと平面の仕事が多かったが、平面から飛び出してしまうものや、立体作品も作っている。

このネオン自転車も、彼が日常使っている自転車にネオンをつけただけのものだが、実に美しい。これをファーレ立川用に譲り受けて地下駐輪場のサインに使うことにした。

ファーレ立川は昼だけではなく夜が楽しい。都市は 1 日中呼吸している。その中で作家の分身でもある作品が美しく輝いている。そんな日常的な例としてラウシェンバーグの自転車ネオンは光っている。